

POWER UP

INTERVIEW

ナミックス株式会社 代表取締役社長 おだじま としのぶ 小田嶋 壽信 氏

エレクトロニクスの進化に貢献する オンリーワン・ナンバーワン企業へ



PROFILE

1968年生まれ、東京都出身。法政大学を卒業後、電子部品関連企業に入社。香港現地法人での勤務を経て、1997年にナミックス株式会社入社。2003年代表取締役副社長、2006年代表取締役社長に就任。新潟商工会議所では工業部会部会長を務めるほか、新潟活性化委員会の委員として活動する。

●同社の主な受賞歴

2015年「グッドカンパニー大賞」グランプリ
2020年「グローバルニッチトップ企業100選」

一般塗料製造からエレクトロニクス分野へと大きく転換し、研究開発型企業として最先端の技術と製品で多様なニーズに応えるナミックス。規模の拡大よりも本質の深化にフォーカスした企業づくりを目指す小田嶋社長にお話を伺いました。



ナミックス株式会社
〒950-3131
新潟市北区濁川3993番地
TEL : 025-258-5577 (代)
<https://www.namics.co.jp>

農業はビジネスよりも地域貢献の一環。スマート農業と観光農園の2本立てで、若い世代に農業の今と未来を見てほしいと思っています

エレクトロニクス分野に特化。 独自開発技術で世界市場を拡大

1946年に塗料メーカーとして創業したナミックスは1950年代から電子部品用材料に徐々にシフト。1980年からエレクトロニクス分野に特化し、電子部品や半導体用の絶縁材料と導電材料の両方を手掛ける世界でも数少ない企業として成長を続けてきた。「同じ材料でもお客様によって求めている性能が違うので、各仕様に合わせた細かい調整が必要です。その部分に技術的に対応できることも我々の強みだと思います」と小田嶋社長。こうして大量生産では対応できない分野を追求するとともに、1999年から本格的に海外展開を進め、世界トップシェアを獲得する製品も誕生。事業のコアとなる技術開発部門では、大小含めて年間約300本もの開発テーマに取り組んでいる。

「相互繁栄」の実現を目指し 就労支援や地域貢献活動に取り組む

「長年事業を続けてこられたのは、常に新しいことに取り組んでいるからではないでしょうか。よく第二創業・第三創業と言いますが、当社は初代、先代の頃から絶えず新しい試みを繰り返してきたので、77年続く企業にしては会社の風土や仕組みなどは新しいと思います」と話す3代目の小田嶋社長が大切にしているのは、会社、顧客、社員、地域がともにwin-winになれる関係を築くこと。企業理念でもある「相互繁栄」を目指したいという。

その考え方の一環として、社員の子どもと地域の子どもを共に預かる事業所内保育園を2016年



同社のエレクトロケミカル材料は、テレビ・スマートフォン・パソコンなどの生活家電から、社会インフラの制御システムまで、あらゆるものに使用されている。現在、売上の海外比率は80%を超える。

斬新なデザインが印象的なナミックステクノコアは、最先端の技術を生み出す研究開発施設。世界レベルの装置を保有し、研究に注力できる環境を整えている。



に開園し、働きやすい職場環境整備と地域に貢献。また、「青少年・文化・スポーツ」をキーワードに、各種大会やイベントの協賛、寄付など地域貢献活動も積極的に行っている。

本業のノウハウを導入し農業に挑戦。 農作物を満喫できる観光農園も開業

新潟商工会議所の工業部会会長として、「会員が積極的に参画できて、なおかつ交流を深められるような会づくりをしたいと思います。視察に関しても、より興味を持ってもらえるところを選ぶようになっています」と小田嶋社長。さらに昨年発足した新潟活性化委員会にも参加し、部会を越えて地域活性化に向けた意見交換を進めている。

今後は新規事業の農業にも力を入れる同社。「将来の日本の食糧事情などを考え、まずは農業立県である新潟から始めたいと思いました」と話すように、同社が培ってきた工場管理のノウハウを導入したスマート農業を、新潟市北区の農地で実践。数年後には西蒲区に観光農園を開業する。「農作物の美味しさを伝える場所を作ることで、農業への理解を深めてほしいと思っています」と小田嶋社長。新しい分野への挑戦が、どのように展開していくのか注目していきたい。



社員だけでなく地域住民も利用できる事業所内保育園「えびがせ保育園アミック」。保育事業は「女性が安心して働ける環境を整えたい」という先代社長から続く悲願であり、実際に女性社員の雇用確保に繋がっている。